



## GAZOO Racing 86/BRZ Race 第5戦 十勝スピードウェイレースレポート

開催場所：十勝スピードウェイ 開催日：6月27日(日)

### 波乱の最終ラップの混戦を制するも、惜しくも2位でフィニッシュ！！

GazooRacing 86/BRZ レース第5戦十勝スピードウェイは2014年06月29日の日曜日に予選、決勝を行うワンデーレースで行われた。ここまでカバナレーシング with P.MU は未だ未勝利と苦戦中だがこの北の大地での巻き返しとなるだろうか？

今レースの舞台となる十勝スピードウェイ。練習走行日である28日の土曜の午前中は、快晴も午後から気温があがらず、ときおり小雨が降る若干不安定な天候の中開催された。山野選手は午前中の練習走行では一番時計を叩き出すも、午後からの走行ではライバルチームの谷口選手が巻き返し一番手。カバナレーシング with P.MU チームの望んでいるコンディションよりは気温、路面温度ともに若干低いのが気になる所。今シーズンは雨や気温に泣かされるケースが多く天候や運を味方につけられずにいるが、決勝レースで天候の女神は我々に微笑んでくれるのだろうか...

決勝の日曜日は朝から小雨がぱらつく生憎の天気。気温も上がりきらず最善のコンディションとはいえない状況。幸い雨は路面を濡らす程までは本格化しなかったのだが、チーフメカニックの山崎さんによるとタイヤにとっての理想的な路面温度よりはかなり低いとの事。

予選は計測1周目に一発でタイムを出す予定で、フロントポジション確保のため勢い良くピットロードを飛び出すも、1周目ではタイヤを温め切れずに断念。ここでも谷口選手に0.236秒差のリードを許してしまう。フロントローこそは確保するも山野選手にとっては悔しい予選2番手で決勝レースに挑むこととなる。決勝レースは雨こそ降らずにいてくれたものの相変わらずの冷たい風が吹く冷えこんだ天候。山野選手はスタート良く1コーナーで谷口選手を刺しにいくも及ばず、逆にスタートラップが速い蒲生選手に2番手のポジションを

奪われる悔しい展開。序盤は3番手のポジションから首位を狙うも、かなりの低温の中、路面温度の上昇が見込めず苦しい状況が続く。

今シーズン好調の谷口選手はホールショットから逃げ切り体制を築きつつ、蒲生、山野、青木の三選手で2番手を激しく争うこととなる。ここから山野選手が本領を発揮する。3周目には蒲生選手のミスをつき山野選手は2番手へポジションアップをはかる。5周目の時点では、2番手の山野選手に対して4秒強の差をつけて先行する谷口選手を追走することよりも、蒲生、青木選手との後半戦の争いに備えてタイヤのコンディション維持に作戦を切り替える。

ラスト5周目あたりから2番手争いに大きな動きが出始める。1周のペースで蒲生選手を上回る青木選手が蒲生選手をパス。さらにその余勢に乗り、2番手を走る山野選手との差をみるみる詰めはじめ追撃体制を取り始める。レースも残り3周となり山野選手と青木選手はテールトゥノーズのドッグファイトを展開。虎視眈々と山野選手の背後からチャンスをうかがう青木選手だが山野選手のクレーバーなライン取りが青木選手の果敢なアタックを阻止する。最終周のストレート、スリップストリームでぴったり後ろに着く青木選手に対してイン側にラインを取り、1コーナーでの青木選手の仕掛けに備える山野選手。両車は一步も譲らず1コーナーに突入、そのため接触してしまうがお互いなんとかコース上に留まった。車体に大きなダメージを受けつつも最終周のインラップを巧みなライン取りを駆使し我慢の走りで2番手を死守する山野選手。シケインにて3番手の青木選手と4番手の蒲生選手は再度接触で順位を入れ換えるも、山野選手はそのまま2位でチェッカーを受けた。

非常に苦しいレース展開の中、持ち前の速さとクレーバーさで一度は奪われた2位を奪回して最後まで守りきった我らが山野直也選手と、実績と経験が豊富なカバナレーシングチーム with P.MUのチームクルー。まだシーズンも半ば折り返し地点でこれからの逆襲と次戦の戦いも大きな希望が持てるだろう。なお最終周のクラッシュは右リアタイヤのリムが捲れ上がりエア抜けやバースト、リアバンパーの脱落などが起こっても不思議がない程のダメージだった。無事にポジションをキープしての2位フィニッシュ、ポイントの確保は非常に大きな仕事であったと言えるだろう。念願の今シーズン初勝利は次戦の富士以降に持ち越されたが、その日は着実に一歩ずつ近づいていると、チーム全員が確信した一日であった。